



社長のひとりごと…

当誌『わいわいくらぶ』は、当社の大切なお客様のために、わたしたち藤本工務店のスタッフがお伝えさせていただきますコミュニティー誌です。

『ただいま～！』



建築業界には「足場屋さん」という業種がある。ご存知かもしれないが、足場とはビルや家などを建てる際に、建物の外壁に沿ってつくる作業床のことである。それをつくるのが足場屋さんで、大工さん達が安全に作業をするためには無くてはならない大切な仕事である。また、足場屋さんは通称”鳶（トビ）”と呼ばれ、若い職人さんも多い。ニッカポッカというすそがダボダボに広がったズボンにヘルメット姿がトレードマークで、その姿に憧れて仕事に着く人も少なくないと聞かすが、この仕事は高所での危険な仕事でもある。

先日、あるOBさんのお宅で、外壁の塗り壁を修理する事になり、地面から8mくらいの高さに足場が必要になった。足場屋さんをお願いしたところ、混み入ってはいたが、なんとか予定を入れてもらうことが出来た。

そして、組立当日。現場に行くと・・・、やってきたのはトビのお兄ちゃん一人である。

私：「兄ちゃん一人か？」

トビの兄ちゃん：「ハイ。今日は一人っす。」

そのトビさんは年の頃は24～25歳くらいの好青年である。組立箇所は少ないとはいえ、一人で組むのは容易でない事ぐらい私も認識していたので、「兄ちゃん、手伝ってやるわ～」と言ったら、実に嬉しそうな顔をした。しかし、私は大工経験は長いですが、プロの足場屋さんとは足場を組むのは今回が初めてである。足場の部品は鉄製で、一つ一つの部品が結構重たい。何の支えの無いところから始めるのでグラグラ揺れて不安定で、4mくらいの高さを建てる時に下から見上げれば、倒れてくるような錯覚を覚える。6mくらいの高さまで組むと揺れも大きくなり、8mともなれば、その高さに思わず足がすくむ。

私：「兄ちゃん怖くないんか？」

兄ちゃん：「怖いっす！」

私：「・・・」

彼らは毎日の仕事で慣れているから平気だと思い込んでいたが、こんなの誰だって怖いに決まっている。

兄ちゃん：「一番怖かったのは40mの高さに組んだ時っす。」

私：「お金いらんから帰りたいと思ったやろ（笑）」

兄ちゃん：「逆にこっちがお金払うから帰りたいっす（笑）」

さすがに、この言葉には声が詰まった。

お互いにそうであるが、朝「行ってきま～す」と言って出た人が、夕方、必ずしも「ただいま」と帰ってくる保証はどこにもない。特に建設業は危険と隣り合わせの状況が多く、もしかしたら無言のまま冷たくなって、ご帰宅するかもしれない。そう思えば朝「行ってらっしゃい」と”手を合わせて”送り出しても、決して大げさな話ではないだろう。

とは言うものの、

そんな送り出し方をされた事が、今までの私の人生で一度もないのは何故だろうか・・・。

ではまた、来月もお会いしましょう。
今回も最後まで読んでいただき……、

あっぱれ
ございました!!

